

「体罰」と聞いて

あなたは何を
イメージしますか？

「体罰」と聞いたときに、あなたがまっさきに思い浮かべるのは「頬をぶつ」「背中を棒で叩く」といった行為かもしれません。

その他にも、長時間正座をさせたり、どこかに閉じ込めたりすることも「体罰」に該当します。

加えて、怒鳴りつけたり、子どもの心を傷つける暴言等も、子どもの健やかな成長・発達に悪影響を与える可能性があります。子どもをけなしたり、辱めたり、笑いのものにするような言動は、子どもの心を傷つける行為で子どもの権利を侵害します。

「体罰」等が

家庭や子どもにも
もたらす悪影響

体罰等が子どもの成長・発達に悪影響を与えることは科学的にも明らかになっています。

また、体罰等により一時的に子どもが落ち着いたように感じられても、それは根本的な解決ではありません。体罰等は、親子関係や家庭に様々な弊害を生む可能性があることが報告されています。

「体罰」が繰り返されると…

下記のようなリスクが高まります



親子関係の悪化



精神的な問題の発生



反社会的な行動の増加



攻撃性の増加

体罰が頻繁に行われるほど、そのリスクはさらに高まると指摘する調査研究もあります。*

*Gershoff ET, Grogan-Kaylor A, J Fam Psychol. 2016

このような行為はすべて体罰です*

- ・言葉で3回注意したけど言うことを聞かないので、頬を叩いた
- ・大切なものにいたずらをしたので、長時間正座をさせた
- ・友達を殴ってケガをさせたので、同じように子どもを殴った
- ・他人のものを取ったので、お尻を叩いた
- ・宿題をしなかったので、夕ご飯を与えなかった
- ・掃除をしないので、雑巾を顔に押しつけた

直接的・身体的な行為でなくても、 子どもの心を傷つけることは子どもの権利を侵害します

- ・子どもの前で妻に暴力を振るった
- ・お前なんて生まれてこなければよかったと言った
- ・兄弟と比べてお前はだめな子だと言った

*道に飛び出しそうな子どもの手をつかむといった子どもを保護するための行為などは該当しません。